

平成30年11月16日
(2018年)

保護者の皆さまへ

吹田市立吹田第一小学校
校長 野田 健 司

平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にして頂きますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

●国語A

《概要》

結果分布は正答数の多い側に分布し、平均正答率は全国値とほぼ同じ結果となった。

《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くこと

- ・この領域では、相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら道筋を立てて話すことができるかどうかという問題の1問であったが、正答率は全国値をやや上回る結果となった。

書くこと

- ・自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える問題の1問であった。
- ・構成の工夫と効果をとらえる問題で正答率は7割を上回り、全国値とはほぼ同じであった。

読むこと

- ・「目的に応じて必要な情報をとらえる」問題が1問と、「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題」が1問の合計2問の出題であり、全国値とほぼ同じで、無解答者はいなかった。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・文の中における主語と述語との関係などを読み取る問題で全国値をやや下回っていた。
- ・相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題では、身内に関わる行動について尊敬語を用いる児童が多く、全国値をやや下回っていた。
- ・漢字を書く問題は5問中4問の正答率が全国値をやや上回った。

●国語B

《概要》

結果分布は正答数のやや多い側に分布するが、平均正答率は全国値をやや下回る結果となった。無解答率は、ほとんどの問題で全国値を下回った。

《各領域における成果と課題》

話すこと・聞くこと

- ・3問出題されていたが正答率が全国値を下回っていた。
- ・選択問題では、該当文の一語だけを読み、選択肢と結びつけていると思われ、文全体を論理的に捉えることに課題がある。
- ・二つ以上の条件を満たして文章化する問題で、一つの条件しか満たさない解答が多く見受けられた。

書くこと

- ・ 5問の出題中、正答率が全国値を上回っていたものが2問、やや下回っていたものが3問であった。離れたページに提示される複数の選択肢から、キーワードを見つけて関連付け、必要な情報を取り出して加工する問題に苦労したようである。

読むこと

- ・ 2問の出題中、国語Bの最後の記述式1問の正答率が全国値を大きく上回り、選択式の1問が全国値を大きく下回っていた。
- ・ 条件作文では正答率が比較的高く、提示された文章から具体例をひき、条件にそって文章化することは概ねできていた。

●算数A

《概要》

正答数の結果分布はほぼ平均して散らばっており、平均正答率は全国値とほぼ同じ結果となった。また、無解答率を見るとほとんどの問題で全国値を下回った。

《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・ 正答率は、5問中2問が全国値を上回った。
- ・ 正答率が下回ったのは、除法で求められる問題文を選ぶという問題であった。除法で求められる問題文の意味を読み取れなかったり、複数回答であったりすることを見落としていたと考えられる。

量と測定

- ・ 正答率は、4問中3問が全国値を大きく上回った。
- ・ 正答率が全国値を下回った問題については、問題をよく読んでいなかったか、取り違えてしまったと考えられる。

図形

- ・ 正答率は、3問中2問が全国値を下回った。
- ・ 円周率を求める問題や、空間の中にあるものの位置を示す問題で正答に至らなかった。

数量関係

- ・ 正答率は、5問中2問が全国値を上回った。
- ・ 2つの条件が当てはまるグラフを選ぶ問題では、どちらか片方の情報のみでグラフを選んでおり、問題をすべて読むことができなかったと思われる。

●算数B

《概要》

結果分布は正答数の多い側に分布し、平均正答率は全国値とほぼ同じ結果となった。領域をまたぐ複合問題や文章読解に課題が見られた。多くの問題で無解答があった。

《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・ 全国値と比較して正答率は6問中2問が上回っており、下回った問題との差が大きかった。最も上回ったのは、規則性を解釈し、それを基に条件に合う物を選択する答える問題であった。
- ・ 折り紙が足りる理由について、根拠を明確にして記述する問題が全国値を下回っていた。

量と測定

- ・ 全国値と比較して正答率はやや下回っており、領域「図形」も併せて問われる問題で、図形の性質を基に集まった角の大きさの和が360度になっていることを記述する問題では、無解答が目立った。
- ・ 示された情報を解釈し、時間を表に整理して求める問題は、全国値を上回っていた。

図形

- ・ 図形の問題は2問であった。合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見い出し、その構成要素や性質を基に解答する問題であったが、全国値より下回った。
- ・ 誤解答の割合を見ると、図形の性質の理解が不十分であることが分かる。

数量関係

- ・数量関係のみの問題では、全国値とほぼ同じか上回るものの、「数と計算」・「量と測定」も併せての問題となると、全国値を下回っていた。
- ・グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを記述する問題では、全国値と同じように正答率が一番低かった。

●理科

《概要》

正答数の結果分布はほぼ平均して散らばっており、平均正答率は全国値をやや下回る結果となった。また、無解答率を見るとほとんどの問題で全国値を下回った。

《各領域における成果と課題》

物質

- ・4問の出題だったが正答率は全国値よりやや低く、無回答率は全国値とほぼ同じで低かった。
- ・実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し記述する問題で、全国値を大きく下回った。
- ・最後の方の問題でも他の問題と変わらず無回答率は低かった。最後まで答えようとする姿勢がうかがえる。

エネルギー

- ・4問の出題のうち、1問のみ正答率が全国値を上回った。
- ・電流の向きと大きさについて実験結果から考え直した内容を選ぶ問題で、全国値を大きく下回っていた。
- ・太陽の位置と光電池の発電の関係を目的に合ったものづくりに適用させる問題で、全国値を上回っていた。

生命

- ・4問の出題だったが、知識に関する問題で正答率が全国値を上回り、無回答はなかった。
- ・生物を愛護する態度をもって野鳥のひなを観察できる方法を選択する問題で、全国値を大きく下回った。

地球

- ・6問の出題のうち、2問が正答率で全国値をやや上回り、無回答率は全国値とほぼ同じで低かった。
- ・流れる水のはたらきの実験で、結果を基に分析して考察する記述問題が、全国値を上回った。
- ・川の上流側の天気と下流側の川の水位の関係についての選択式問題で、全国値を大きく下回った。複数の情報を関係づけて分析するというところに課題がみられる。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

●生活に関するアンケート

《生活について》

朝食を食べていない児童の割合が全国値と比べて著しく高かった。

就寝・起床時刻が全国値と比べ不規則な傾向にある。十分な睡眠時間の確保ができていないと思われる。

《自己肯定感について》

全体的に「当てはまらない」と回答している児童が全国値と比べてはるかに割合が多い。

「学校のきまりを守っていますか」の質問には、「当てはまらない」の割合が全国値より高かった。

《学習について》

「家で学校の宿題をしている」と大半が答えているものの、家で学校の授業の復習はしていないと回答した割合が高かった。家庭での自主学習においては消極的と言える。

「放課後何をして過ごすことが多いか」「週末に何をして過ごすことが多いか」の項目ではTV・ビデオ・DVD・ゲーム・インターネットをして過ごしている児童の割合が全国値より多かった。また、週末に家族と過ごしていると答える児童は全国値と比べて低かった。

《地域・社会への関心について》

「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人とかかわったりする機会があったと思うか」の項目では多くの児童があったと答えているが、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるか」の項目で「当てはまる」と回答している児童は半数程度にとどまった。「新聞はほとんど読まない・全く読まない」と回答している割合より、「テレビやインターネットのニュースを見る、ときどき見る」という項目で、「見る」と答えた割合の方が上回っていた。活字を見ることは少ないが、社会の出来事に関心がないわけではなく、メディアを通して情報を得ていると考えられる。

《いじめについて》

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」といった質問には、はっきりいけないと回答した割合が全国値より低かった。いじめはどんな理由があってもゆるされないこと、絶対にしてはいけないことだと、引き続き道徳を中心に学校生活の様々な場面で指導していく必要がある。

●学習に関する質問

《算数》

算数の勉強は好きと答える児童が約半数であるが、さらに高い割合で、授業はわかりやすい、算数は大切であると考えている。昨年の課題であった「問題の解き方がわからないときは諦めずにいろいろな方法を考える」「新しい問題に出会ったとき、解いてみたいと思う」、「もっと簡単に解く方法はないか考える」について肯定的に回答した割合が高く、少人数学習の成果であると考えられる。

《理科》

「理科の観察・実験は好き」と回答している児童は多かったが、「授業で自分の考えを説明したり発表したりしている」「学習したことを普段の生活で活用できないか考える」という児童は半数以下にとどまっており、学んだことを説明したり活用したりすることは苦手であると考えられる。また、将来理科に関係する職業に就きたいと考える児童も少ない。

3. 今後の取り組み

《学習について》

国語においては、引き続き漢字の学習を低学年から丁寧に積み上げ、主語や述語、敬語などの言語事項について、学習が終わった後も様々な場面で敬語を意識して使ったり、主語と述語を意識して文を書いたり読み返したりする指導をするとともに、プリント等を活用した反復練習の取組を今後も進めます。また、話すこと聞くことの経験を学習場面で増やしていくことで、観点に沿って話したり発言者の意図を考えながら聞いたりする力を育てていきます。また、書くことについては苦手な条件作文について、複数の条件を満たす文章を書く経験を積み重ねること、書いたものを読み返す習慣をつけることを意識して指導していきます。また、文章を構造的に読むこと、観点を意識して読むことについては、授業の教材を活用して単元を通して指導していきます。算数においては、引き続き基礎的な学力について、低学年から学び残しのないよう積み上げることを大切にしながら、中学年からの少人数指導や放課後のステップアップ学習等を活用して、高学年に向けて確実に身に着けることができるよう努めてまいります。また、条件が多い問題や読解力が必要な複雑な問題についても、授業で問題解決型の指導を通して、自力で問題に取り組む力や、友だちの意見を柔軟に取り入れて解決していく力を育てていきます。理科については、身の回りの物事と理科での学習の関連を意識できるような授業を通して、自分なりの考えや実験からの考察をまとめていく力を育むよう努めます。

《生活について》

健全な生活習慣・生活リズムが子どもの心身の健やかな成長につながります。朝食を食べること、早寝早起きなど、家庭と協力・連携しながら改善に努めたいと思います。家庭での学習の習慣についても、生活習慣の改善と合わせて、家庭と連携・協力し、子どもの自学自習力をつけていきたいと考えています。しかし、子どもたちの生活に占めるインターネットやゲームの割合が高い傾向にあり、放課後の過ごし方を見直すためにも、一定のルールを設けてその割合を減らし、家族と過ごしたり地域行事に参加したり、放課後や休日に多様な体験ができるよう呼びかけてまいります。また、いじめについては、何があってもいじめはいけない、という指導を改めて学校全体で徹底していきます。さらに、各学年の道徳の授業を通して、いじめについてみんなで考える場をつくります。いじめはよくないと思えるためには、自分に価値があると感じられることが必要です。子どもの指導にかかわるすべての教員が、子どもたちの自己肯定感を高めるようなかかわりや学習活動の充実に努めてまいります。

以上、簡単ですが今後の学校の取り組みについてお伝えしました。

今後とも、学校と家庭と地域と協力して子どもたちをともに育てていきたいと思っています。そのために、課題を共有し、方針を同じくして子どもの指導に当たることがとても大切だと考えます。どうぞ、引き続きご理解ご協力をよろしくお願いいたします。